



THE ROTARY CLUB

OF YAMATO-NAKA

大和中ロータリークラブ会報

LET SERVICE LIGHT THE WAY

奉仕の灯で道を照らそう

R.I 会長 James L. Bomar Jr.

第 86 回 例会 1980 年 3 月 6 日 (木) 雲 第 91 号

出席報告

会 員 数	出 席 数	出 席 率	前回の修正
30 名	27 名	90 %	96.67%
欠 席 者 藤田, 布施, 高山			

芦田会長テーマ 友愛と協調

司 会 芦田会長

ゲ ス ト

村上 雅子さん

ヒ シ タ ー

田尻洋三君(藤沢北), 矢部隆司君(横浜瀬谷)
山田 満君(座間), 甲斐田 豊君, 浅野憲夫君,
大川正夫君, 近藤繁松君(綾瀬)。

星 幸男君, 蒲生秀雄君, 安藤忠夫君, 竹村孟昭
君, 石井義久君, 田崎市松君, 道岸唯一君, 小栗
孝司君, 晴山一正君, 岡田安二君(大和)

会 長 報 告

・本日は珍しく報告事項はありません。卓話の時
間に譲ります。

幹 事 報 告

・右え倣へ で幹事報告もありません。



ソングリーダー

辻 国明君

君が代

奉仕の理想

委 員 会 報 告

国際奉仕委員会 土屋副委員長

・4月4日(金)中国留学生の皆さんと一緒に首
都高速道路公団見学会を開催いたします。
首都高速9号線, 東京第2管理部, 湾岸線, 荒
川橋沈埋トンネル等。午後10時~午後4時頃ま
で, 軽い夕食も用意いたします。ご希望の方
15名までとさせていただきますが, お申し込み下さ
い。

青少年奉仕委員会 伊藤英夫委員長

・青少年養成セミナーへ車体工業(株)総務部
教育厚生課員 近藤次男氏(29才)の推薦を頂
きました。

本日のプログラム 3月13日

「中国訪問を終えて」 辻 国明君

次週予定 3月20日

第6分区 IGF 於千寿閣

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か

3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

事務所 : 大和市中心1-5-40

及び 大和市商工会館内

例会場 電話0462(63)7926

例会日 : 毎週木曜日12時30分より

会長 : 芦田 敬治 副会長 : 佐藤 実

幹事 : 北砂 富三 会報委員 : 上田・竹之内・郡司

親睦委員会 中西委員長

- 本日のお祝い、2名です。ご夫人お誕生日
辻 国明君、小百合夫人（2月15日）。結婚記念日 保田 達君（2月23日）。

スマイルBOX

- 綾瀬RC 浅野会員 お世話になります。
- 綾瀬RC 近藤会員 久しぶりにお邪魔いたします。
- 大和RC 星会員 お世話になります。
- 大和RC 蒲生会員 お世話になります。
- 大和RC 小栗会員 「カゼ」が流行っています皆様、鬼のかくらんにならぬ様、気をつけましょう。
- 大和RC 安藤会員 毎度お世話になります。
- 大和RC 晴山会員、いつもお世話になります。
今日は風邪で熱がありますので、誠に申し訳けありませんが失礼させていただきます。
- 大和RC 田崎会員 お世話になります。
- 大和RC 石井会員 度々お伺いいたしお世話になります。本日もよろしく。
- 大和RC 岡田会員 お世話になります。
- 辻 会員 去る2月20日～28日の8日間に互に中国を訪問して参りました。
ご報告は来週の卓話にてお話し致します。
又、家内の誕生にお祝いを頂き有難うございました。
- 寺田会員 家族会には時間が間に合わぬまゝ出席できず残念な事を致しました。
- 保田会員 先週欠席いたし申し訳けありません、
図らずも小生の結婚記念品、23周年でご座居しました。

卓話

「ロータリー財団基金留学を終って」

村上 雅子さん

紹介 芦田会長

村上 雅子さんは、昭和52年上智大学、英文科卒業後、横浜緑RCのお世話でロードアイランドブラウン大学に留学された方です。

ではアメリカでの学生生活、或いは印象とかいったものについてお話しを伺いましょう。

只今、ご紹介頂きました、村上でご座居ます。

1977～78 ロータリー財団 大学院課程奨学生として留学させて頂きました。私にとって初めての外国生活でしたので今日もその思い出は鮮明に残っております。その中から1つ、2つをお話しさせていただきます。

留学先きは、米国ロードアイランドブラウン大学でありましたが、始めの2カ月間は語学研修期間として、日本、ブラジル等、約110人の口財奨学生が一堂に集りました。言葉と生活指導に対するカリキュラムが行われました。その合間には国立公園への小旅行、地域の歴史についての討論、更には世界中から集まっておりますので各国の民芸などもお互に被露しあったり致しました。この2ヶ月間は友情を温め合う期間としては短かいものであった筈ですが、全員がアメリカ語を外国語としているという仲間意識があったことと、口財団留学生という共通した役割りみたいのものを感

じ合っていた為か、親交を深める事が出来ました。最初は、米人以外の人達と交わりましたがその市は日本にいては想像も出来ない程の多くの方と接触することが出来たのです。従って米国の事と同時に、それ等の国の事情も知る事が出来たのです。

或る時、ナイヤガラの滝にバス旅行をしました隣の席の中年の婦人が、しきりに私に話しかけて来るのです。会話対通表などを出し、話したい気分が充分だったので、そして、それとなしにドイツ語であることがわかりましたので、私の知っている只1つのドイツ語、私はミュンヘンに住んで

います。という意味のことを喋ったのです。勿論同時に英語で、ドイツ語はこれ丈けしか知らないのですと訴えてみたのですが後の祭り、ドイツ語でまくし立てられ困った経験がご座居ました、せめて、ドイツ語は喋れないのです、との言葉を覚えていけばよかったと思ったり致しました。

話しが飛んでしまいました。がブロン大学の横顔について少し触れさせていただきます。ロードアイラン州の小さな街ですが、此処ではブロン大学の学生であるということで1日をおいて呉れました。創立1764年、独立戦争は1775年ですから、それより古いのです。よく米国は歴史が浅いと云われますが1700年建築として、大切に建物を保存しております。その様に見、古くさいキャンパスですが学生達は現代子でした。

学生達の第1の印象は彼らは本当によく勉強します。授業中いねむりをしたり、サボったり等はしません、それは日本人の学生と違ってお互いにノートを見せ合ったり、時に代返をする等は考え及ばない事なのです。その講議を受けてる間、お互いにライバルなのです。夜は夜で12時近くまで図書館にて頑張る勉強しています。

ところが金曜日の夜から日曜に掛けては徹底的に遊ぶのです。私など週3冊もの書物を読まなければならず、週末に図書館で勉強せざるを得ない事もありましたが、アメリカ人にとっては例外の事として映ったと思います。

自分が頼り という玩固なまでの個人主義の為か、それなりに厳しさを感じた次第です。

この様な時に和やかな時間を作って下さったのは申す迄もなく、ロータリアン並びにご家族の方々と温い交りでありました。

795 地区、プロビデンスRCは200人からの会員を擁し、大世帯のため、打ち解けることが難づかしいでした。幸い顧問ロータリークラブであるウナスコタケRC(40名)イタリ系の方々で明るく親切にしてくださいました。幾つかのRCに招かれ、日本の紹介、或いはアメリカに就いての印象などについて卓話を求められました。

地区大会には参加させて頂きましたが、夕食会

ダンスパーティー等が主で、本大会の雰囲気についてお話し出来なく申し訳ありません。

別途の留学生に比べ、私達はロータリアンのお宅にご招待を受けたり、小旅行にご一緒したりアメリカ人の生活の実態について知る事も出来心をほぐす機会に恵まれておりました。

この様な経験のなかでアメリカと日本の違いについて感じた事を申しますと

第1に 個人主義であるということです。寮の中に個室があり、それが集って1つの集落をなしているのですが、どんなに親しくてもノックなしで他人の部屋には入りません。

アメリカ人は初対面の時には、とても親しみ易く感じますが、それ以上入り込めない点があるのです、私達には冷たいと感じることもあったのですが、家族であろうと、友人であろうと1線を画すことが必要であり、これが個人主義なんだと感じたり致しました、そして日本人的感觉で助けてはいけない、という事に気付きました。

第2に 実用主義 であることです。外見を気にしません。どんな見栄らしい恰好をしていても驚ろく程素敵な所に住んでいます。日本とは全く逆です。見掛けより内容を重じるという所でしょうか。

ついでに、ヨーロッパ人とアメリカ人とを1口に比較してみますと共に個人主義なのですが、ヨーロッパ人は格式、礼儀型を重じるといえましよう。アメリカは型より実を取る社会と思えました。

アメリカ人がその個人主義を守りながら、初対面の人達に対しても、永い友人のように接している姿、これから国際社会に入って行く心得だと知り、勉強させて頂きました。

時間も参りました、一般留学生とは異なってロータリアン並びにご家族の方々とお付合を通して、私のアメリカ留学生生活が一層有意義なものとなったことをご報告し感謝いたします。

ロータリー情報

古い情報抄録の記事より

米国イリノイ州エバンストンの事務局には、中央記録保管部と呼ぶ特殊な部があり、そこに一ほかのいろいろなものといっしょに一歴史的に重要な書類、各クラブとの往復文書および既刊のR.I. 定期刊行物が保存されている。情報抄録の第1号は、**クラブ会報編集者用情報抄録**というタイトルで、1973年に発行されている。それには、実際的なことで人の心を動かすような文章が載っているが、以下はその一部である。「クラブで知らない顔を見たら、愛想よく接するようにしよう。自分がよそから来た者として、ほかのクラブを訪ねた場合に、だれも話しかけてくれる者がなかったときのことを考えたら、暖かい挨拶やロータリーでの握手が、自分たちのところにやってきたよその人にとってどれほどうれしいものかがわかると思う。」

灰燼から生まれた大都市

シカゴは、創立75周年記念日を幻えるR.I.の国際大会のホスト役をつとめる。現在米国第2の大都市となっているシカゴは、その昔、もと18世紀のフランスの交易地であったところに栄えた西部辺境の町であった。1871年、シカゴが突如として大火に襲われ、一朝にして灰燼に帰した。世界の各地から救援が寄せられた。復興事業はヨーロッパの名匠たちや米国の逞しい建築家たちを引き付けるところとなり、1884年には世界最初の摩天楼が建てられた。外国からの移住民が、この都市を、現在のような多様な文化の一大モザイクにつくり上げたのである。以上のようなわけで、シカゴに行かれるロータリアンは、シカゴ市民が、チャイナタウン、アンダースンビル（スカンディナヴィア人）、グリークタウン、その他多く見られるような民族的な街をつくり出していることに気付かれることと思う。

ロータリー発祥の場所が「75周年」を 記念して修復されている

1980年のシカゴ国際大会のホスト・クラブ、シカゴ・ロータリー・クラブは今、75周年を記念して、ロータリーの創立者の一人であったガスターバス「ガス」E. ロアアの事務所を修復している。

ポールP. ハリス（弁護士）とシルベスター・シール（石炭商）、「ガス」ロアア（鉱山技師）の四人が、1905年2月23日に世界最初の奉仕クラブを結成するために会合を開いた場所は、この事務所—米国イリノイ州シカゴ、ノース・ディアボン街127、ユニティー・ビルの711号室であった。

1891～92年度に建てられたこの18階建てのユニティー・ビルは、惜の「摩天楼」の一つで、最近米国の**国家史跡指定登録簿**に加えられた。その主な理由の一つは、ロータリーの歴史的な出来事がこのビルの中で行なわれたことからであると考えられる。

711号室は、1980年1月1日からシカゴ・ロータリー・クラブに賃貸されている。

同クラブの史的建造物委員会は今、その部屋を当時の原型に改造したり、改装したりしている。この修復工事は、75周年記念日の2月23日までは完工されるであろう。

シカゴ・ロータリー・クラブはまたその国際大会歓待計画の中に、シカゴで最初の公衆便所となったような、同クラブが初期に社会奉仕事業として行なった施設やポール・ハリスに関係のある地元の遺跡を見て歩く見学旅行も含めている。

史的建造物委員会は、75周年の期間に催す75周年記念展示会のために、米国および世界中のクラブから、同展示会に関するアイデアや支援の提供、特に初期のロータリーの遺物やポール・ハリスの遺品を貸与してくれる申し出を喜んで受け入れるであろう。これについては「The Landmark Committee Chairman, Norman F. Kloker, Suite 500, 469 East Ohio Street, Chicago, Illinois, U. S. A. 60611」宛にご連絡して下さい。